

る（図表2-1-9）。

2 働き方について求められるすがた

(1) ライフステージに応じた多様な働き方の実現

ライフステージによって、働く上で重視することは多様であり、すべての人が希望するスタイルで働き続けることができる環境整備が必要である。

(勤労意欲の充足)

30代の女性を中心に、現在は働いていないが、今後働きたいという希望がある。子育て・介護等によりキャリアを中断せずに働き続けることや、退職や休職等をした後でも、新たに働き始めることができる仕組みが求められる。

また、全年代を通じ、定年に関係なく、長く働き続けたいという希望が多い。さらに、高年層は、労働を通じて収入を得るだけでなく、社会に貢献することを重視している。また、20代等若年層でも、賃金・給与を重視しながらも、仕事へのやりがいを望む声は多い。このことから、スキルを活用した勤務の継続や転職、スキルアップを支援する仕組みづくり等、やりがいを持って働き続けることのできる環境づくりが求められる。

(ワークライフバランスの実現)

20~40代を中心に、仕事をしながら、家事・育児のための時間を確保することや、心身ともに健康で働くために個人の時間を大事にするなど、ワークライフバランスの実現へのニーズがある。このことから、在宅勤務やサテライトオフィスの活用による勤務地の多様化や、フレックスタイム制や短時間勤務等の労働時間の多様化等、場所や時間の制約の少ない働き方に対する取組みが求められている。

(2) 意識改革や技術革新等による仕事の効率化

少子高齢化により労働力人口が減少する中で、女性や高齢者、障害者等の多様な人材を労働者として確保することとともに、生産性を向上させることは非常に重要である。そのためには、無駄な残業時間の削減等、働く人間の意識の変化が必要である。また、インターネットの利用に親和性が高く、第4次産業革命の中心になると思われる若年層をはじめ、あらゆる世代、分野でAIやビッグデータ等のイノベーションが導入され、仕事の効率化が図られることが求められている。

さらに、こうした技術革新が進む中で、やりがいをもって長く働き続けるためには、時代の変化に対応できる人材である必要がある。このため、スキルの更新を目的とした学び直し等の機会の創出が求められる。

第2節

楽しみ方に対する国民の意識と求められるすがた

自分の自由になる時間を充実させることは、人生全体の充実につながり、心身ともにリフレッシュすることにより、働き方を充実させることにもつながる。

本節では、余暇の現状と、充実させたい余暇を年代や居住地別に整理し、余暇の充実の実現に必要な

なことを考察する。

また、地域活動・ボランティア活動等の社会貢献活動^{注17}は、参加することで、やりがいや、いきがいを感じ、その人にとって「楽しみ」となりうる。このため本節では、社会貢献活動を「楽しみ方」の一種として捉え、社会貢献活動への意識について紹介する。

1 楽しみ方に対する国民の意識

(多様な余暇)

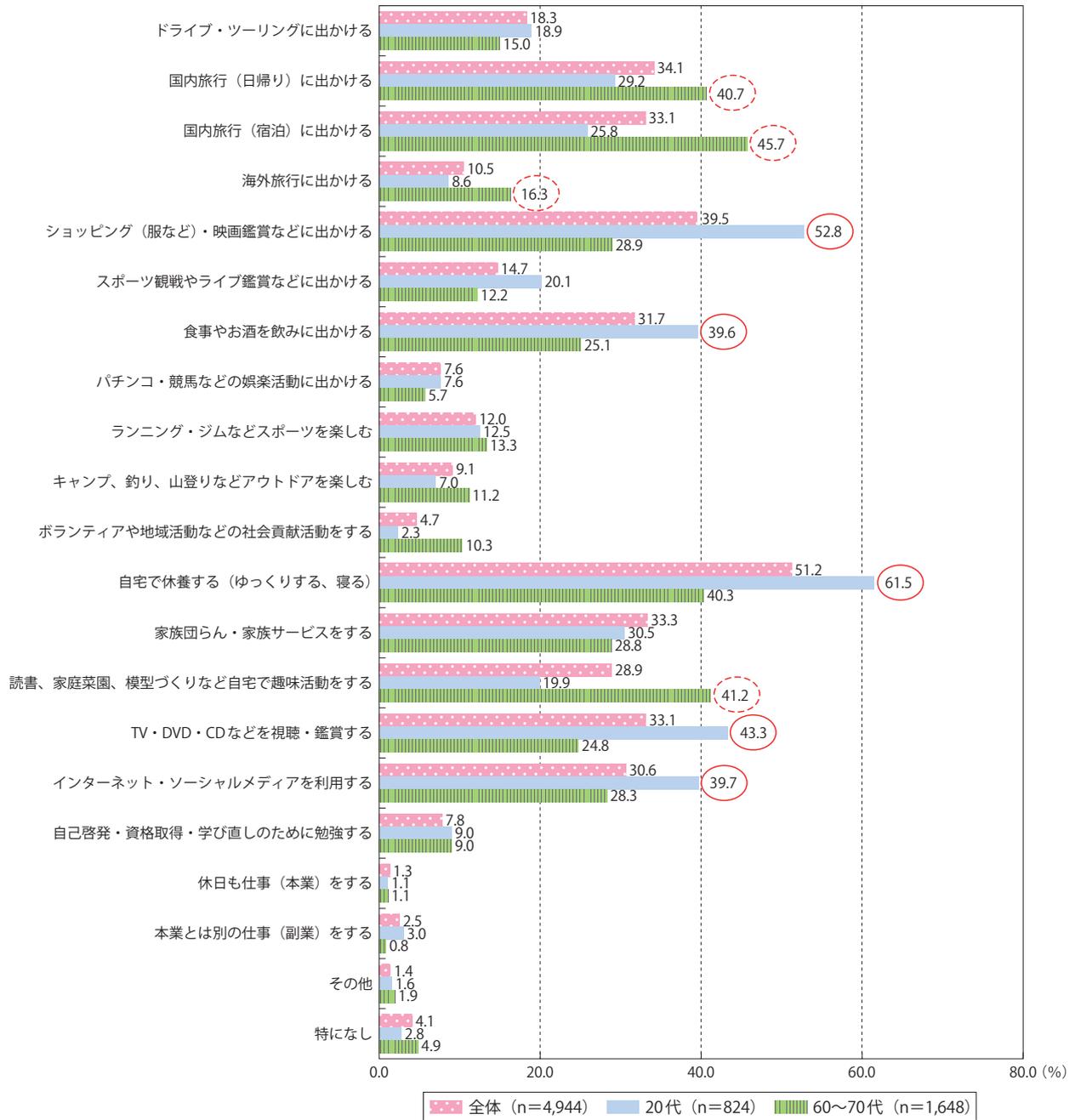
余暇の過ごし方は、年代によって多種多様となっている。特に20代と60～70代では、その過ごし方に大きな差があり、行動範囲にも違いがある。

20代は、「自宅で休養する（ゆっくりする、寝る）」が61.5%と最も多く、「TV・DVD・CDなどを視聴・鑑賞する」、「インターネット・ソーシャルメディアを利用する」など、自宅等室内で余暇を過ごす傾向がある。外出については、「ショッピング・映画鑑賞などに出かける」や「食事やお酒を飲みに出かける」など、気軽に近場で過ごすという回答が多い（図表2-2-1）。

一方、60～70代は、「国内旅行（宿泊）に出かける」「国内旅行（日帰り）に出かける」「海外旅行に出かける」が、全体と比べて高く、行動範囲が20代よりも広いと言える。自宅で過ごす場合には、「読書・家庭菜園・模型づくりなど趣味活動をする」が多く、自宅でも比較的、動的な活動をしていることがうかがえる。

注17 地域活動・ボランティア活動等の社会貢献活動とは、第1章第1節注10の定義と同様。

図表2-2-1 余暇の過ごし方（全体・20代・60～70代）



資料) 国土交通省「国民意識調査」

（充実させたい余暇）

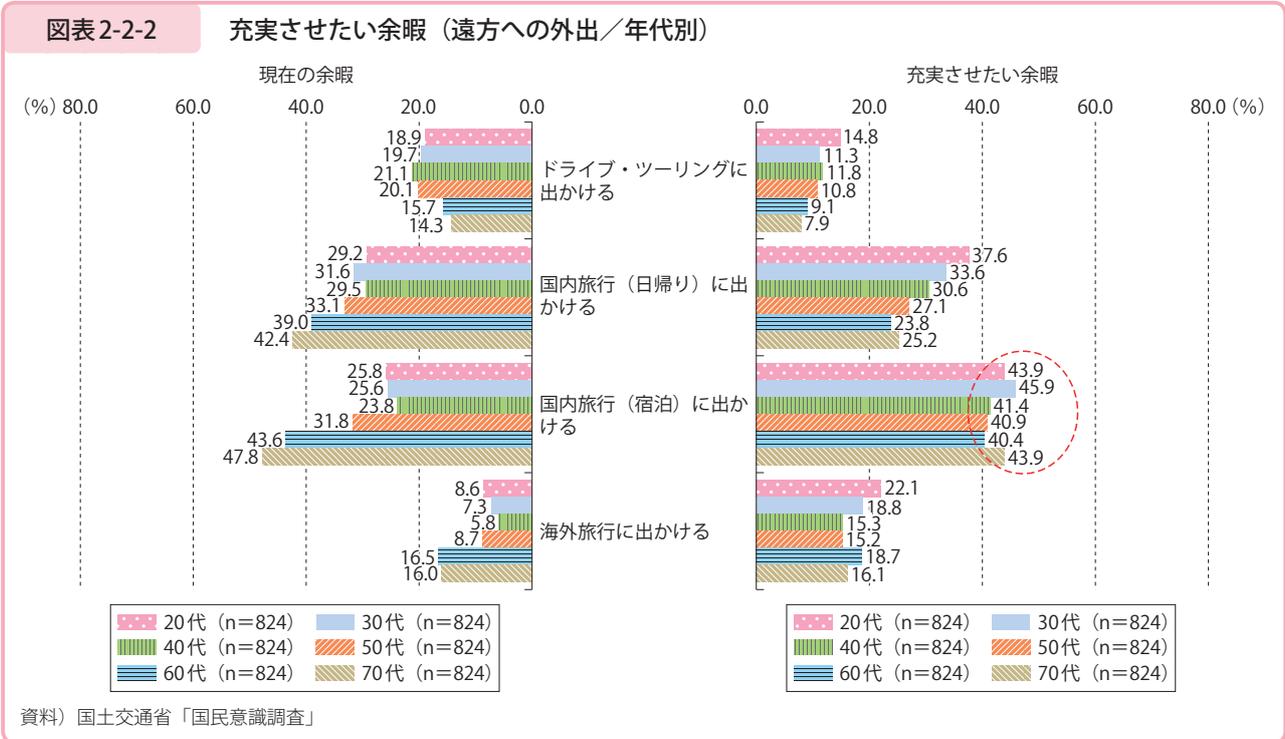
長時間労働の是正やワークライフバランスの実現等により、働き方が変わった場合、どのような余暇を充実させたいかについて調査したところ、現在よりも行動範囲を広げたいという潜在的な希望や、自己啓発や学び直し等、自分自身の成長のための時間を充実させたいという希望があることがわかった。

■行動範囲の広がり

現在、20～50代では、60～70代と比較して旅行等遠方に出かけて過ごす余暇は少ない（図表

2-2-2)。しかし、働き方が変わり、時間が創出された場合に充実させたい余暇については、「旅行に出かけたい」という回答が多く、潜在的に行動範囲を広げたいという希望があることが推察される。

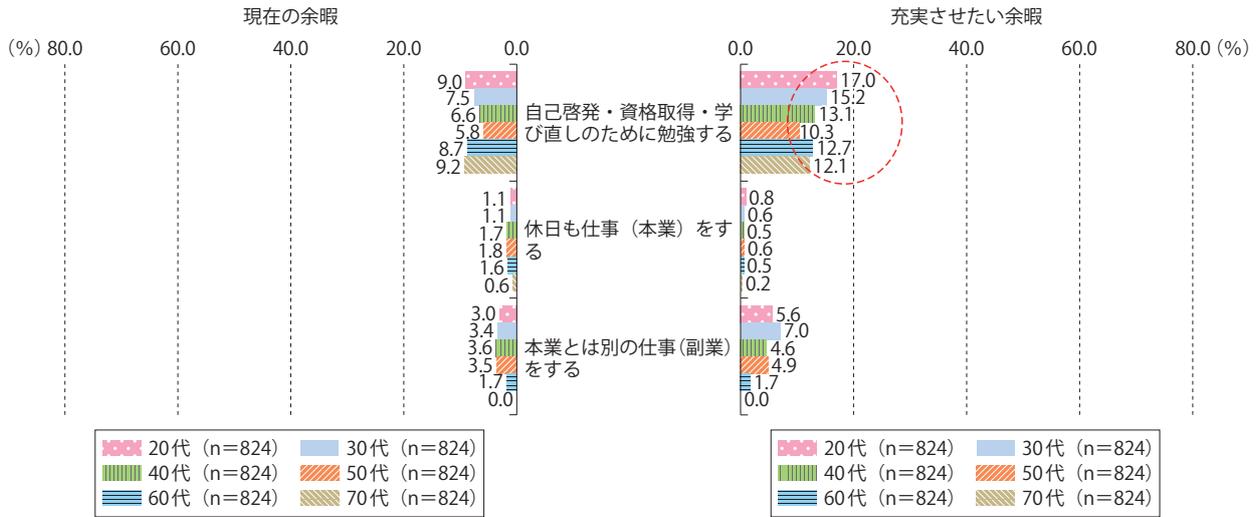
また旅行の中でも、「国内旅行（宿泊）に出かける」は、各年代で充実させたい余暇として多く挙げられており、魅力ある国内旅行が求められている（図表2-2-2）。



■自己啓発や学び直し等の充実

現在の余暇として、「自己啓発・資格取得・学び直しのために勉強する」と回答した人は少なく、20～40代では、それぞれ9.0%、7.5%、6.6%であるのに対し、今後、充実させたいとの回答は、それぞれ17.0%、15.2%、13.1%と現在の2倍程度の割合に増加する（図表2-2-3）。総数は少ないながらも、同様の傾向が「本業と別の仕事（副業）をする」との回答にも現れている。これらのことから、「人生100年時代」を見据えて、スキルの更新やスキルアップのための学び直しや副業をするといった新しい働き方を志向する人が存在しているのではないかと推察される。

図表2-2-3 充実させたい余暇（自己啓発等の学び直し／年代別）



資料) 国土交通省「国民意識調査」

（余暇を楽しむために足りないもの）

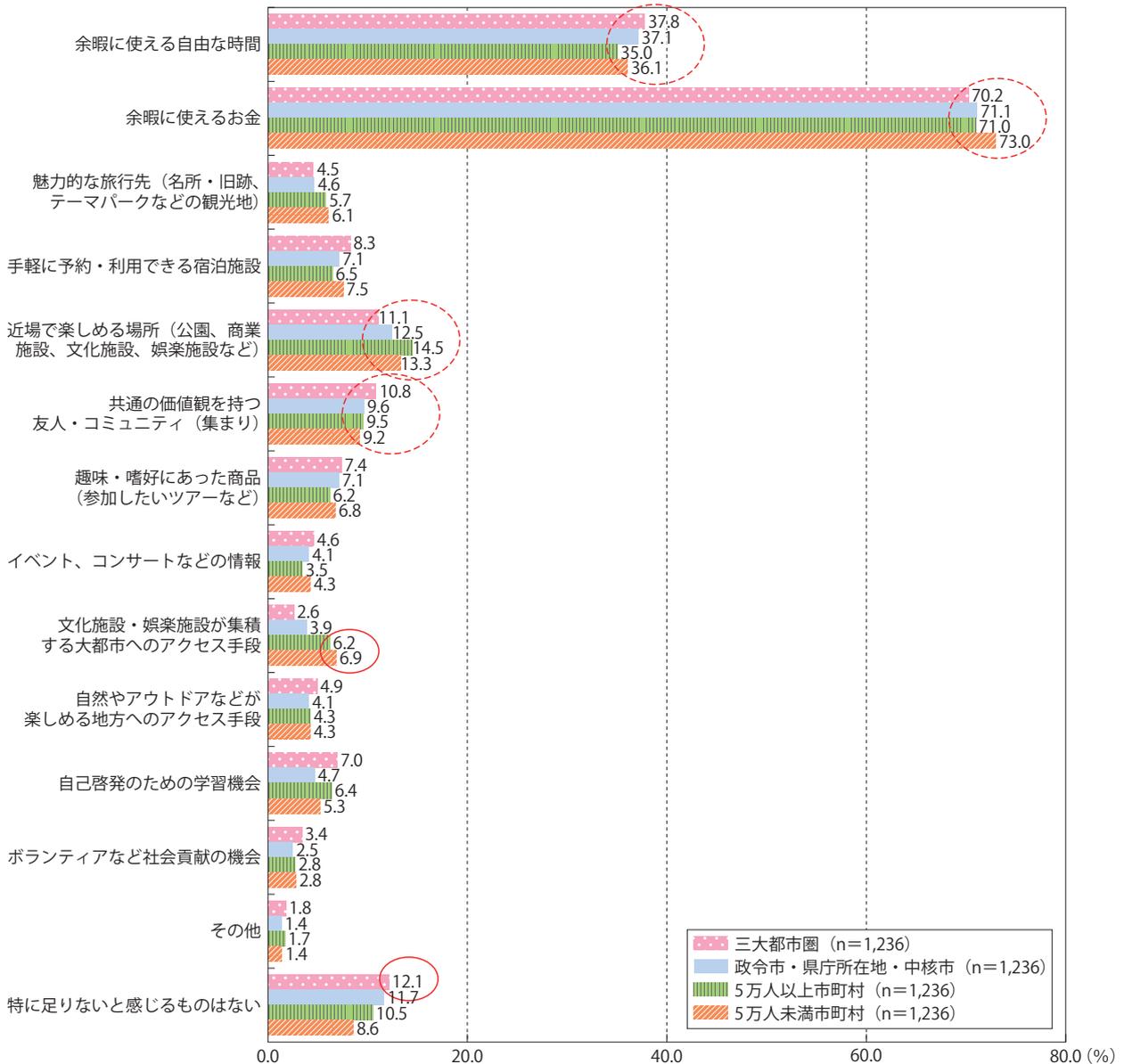
余暇を楽しむために足りないものとしては、「お金」や「時間」が多く、余暇時間を増加させるために、働き方を変える取組みを進めることや、お金や時間をかけず気軽に楽しむことができる場所が求められている（図表2-2-4）。

「時間」と「お金」以外の足りないものについて、居住地別に見ると、三大都市圏では、「特に足りないと感じるものはない」が12.1%と他の居住地と比べて、やや高い傾向にあり、余暇に対する不足感が比較的小さい。

また、全地域において、「近場で楽しめる場所（公園、商業施設、文化施設、娯楽施設など）」が足りないと感じる人が多い。これに関し、人口規模が小さい地域ほど、「文化施設・娯楽施設が集積する大都市へのアクセス手段」と回答している人が多いことから、交通手段の利便性が高まれば、「近場で楽しめる場所」の不足感を、大都市の施設を利用すること等により補うことができるのではないかと推察される。

続いて、居住地を問わず、「共通の価値観を持つ友人・コミュニティ（集まり）」が多く挙げられており、余暇を一緒に過ごす仲間等、つながりに不足感があることがうかがえる。

図表2-2-4 余暇を楽しむために足りないもの（居住地別）



資料) 国土交通省「国民意識調査」

(人生の楽しみとしての社会貢献活動)

本節では、自分の時間を自由に使うことだけでなく、地域活動・ボランティア活動等の社会貢献活動に参加することにより、生きがいを感じることも広い意味で「楽しみ」と捉える。

余暇の時間を使って社会貢献活動に参加することを、人生の楽しみにつながると回答する人は、総じて多い(図表2-2-5)。その中でも20代、70代では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合の合計がそれぞれ59.4%、64.2%と他の年代と比べて多く、社会貢献活動に対する意識の高さがうかがえる。

また、社会貢献活動を、まちづくり等に活用することを促す(広げる)べきであるかについて調査したところ、図表2-2-5と同様に、各年代で肯定的な回答が多く、特に70代では、「積極的に促すべき」「促すべき」をあわせると、73.0%と多い(図表2-2-6)。次に20代の67.1%と続き、社会貢献の

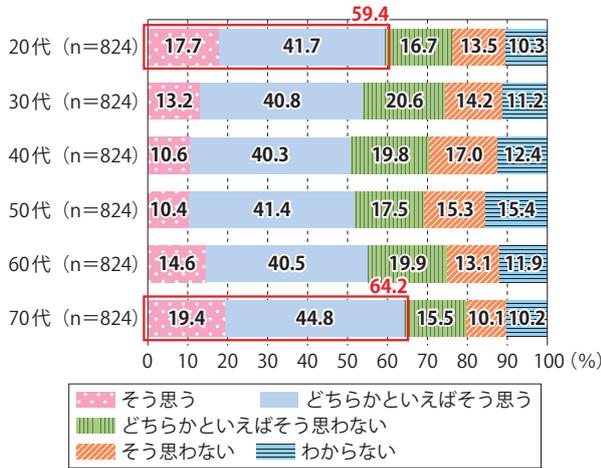
意識の高い年代では、社会貢献活動をまちづくり等に活用する意識が高いことがうかがえる。我が国は、厳しい財政状況にあり、これまでのような行政サービスが困難となっていくと考えられることから、こうした国民の意欲を、いかに活かしていくかが重要である。

I

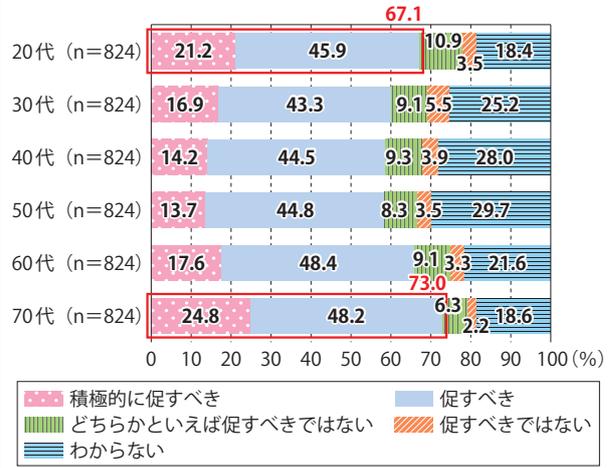
第2章

ライフスタイルに対する国民の意識と求められるすがた

図表2-2-5 社会貢献活動は人生の楽しみにつながるか（年代別）

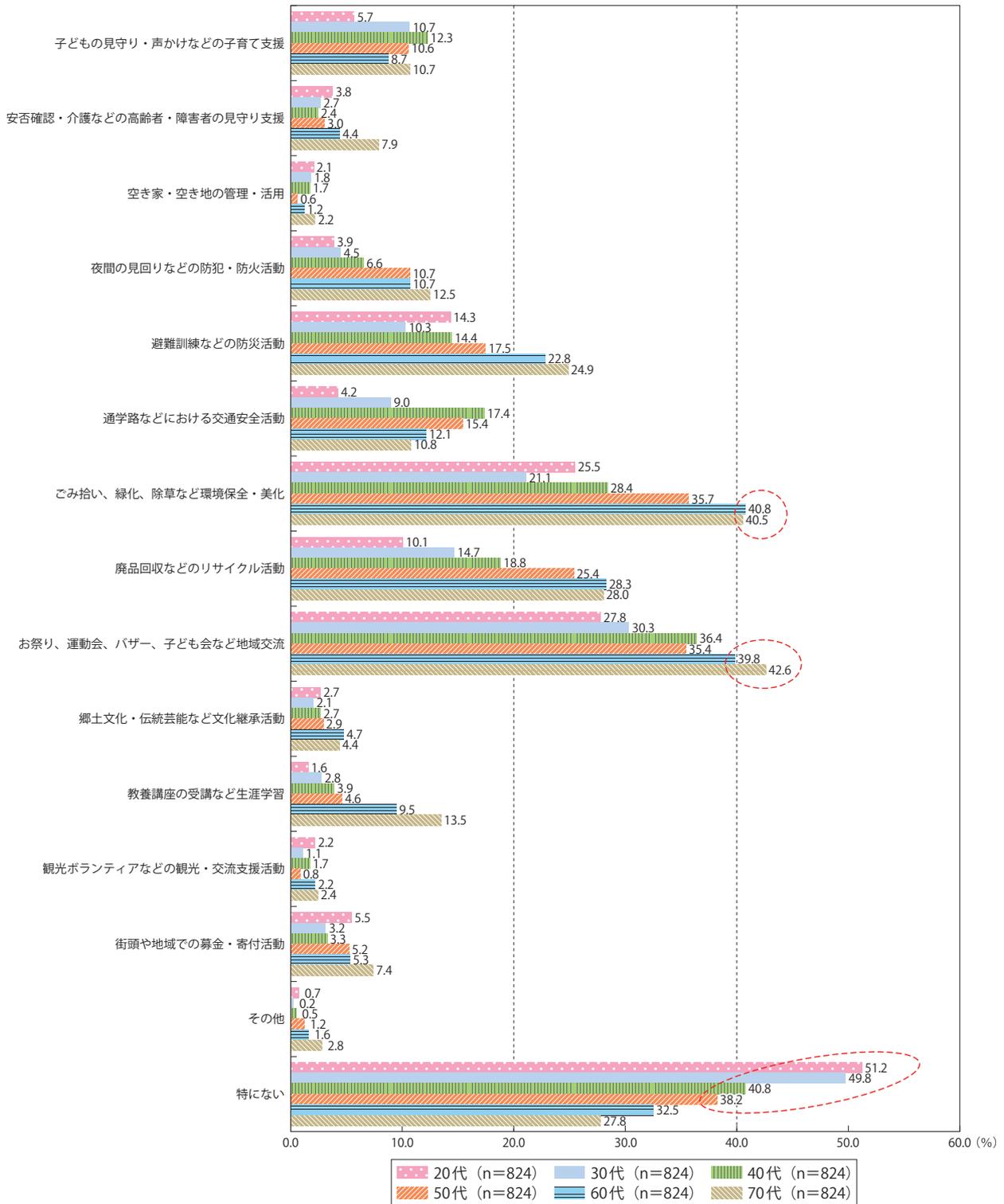


図表2-2-6 社会貢献活動を促すべきか（年代別）



このように、社会貢献活動の参加を希望する声がある一方で、実際の活動状況の有無を年代別で見ると、60～70代ではお祭り、ゴミ拾い等を中心に参加しているが、20～50代では「特にない」と回答する人が最も多い。(図表2-2-7)。

図表 2-2-7 実際の社会参加（年代別）

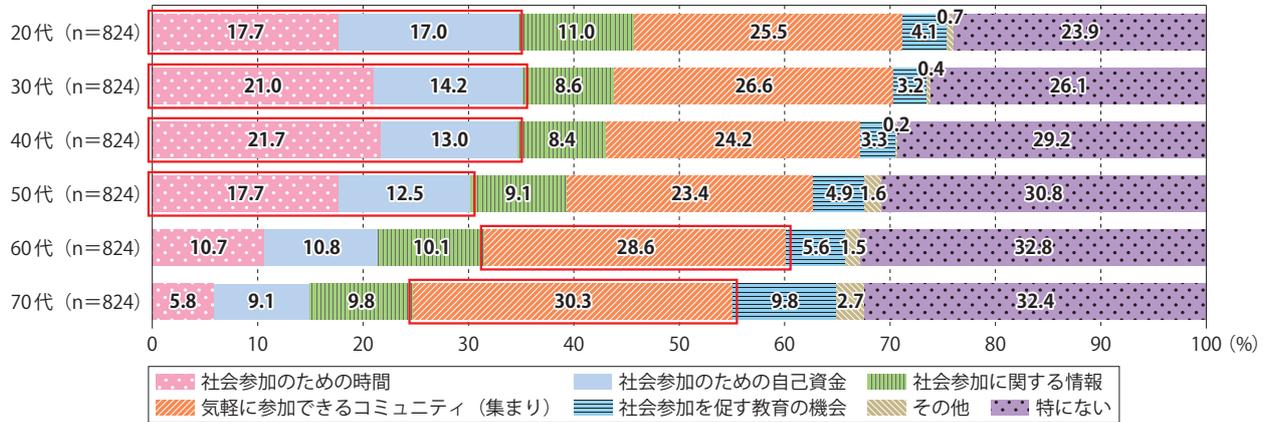


資料) 国土交通省「国民意識調査」

さらに、社会貢献活動を充実させるために不足しているものについて調査したところ、全ての年代で、「気軽に参加できるコミュニティ」を挙げる人が多く、つながりの場を必要としていることがわかる（図表2-2-8）。特に60代、70代では、それぞれ28.6%、30.3%と高く、他の年代が勤務先や学校（家族が通う学校を含む）等のコミュニティがある一方、高年層はこのようなコミュニティが不足しており、社会貢献活動に参加するきっかけを求めていることが推察される。

また、20～50代では、他の年代より、資金や時間の不足感があることから、お金や時間をかけず、気軽に参加できるコミュニティや活動を増やすこと等が必要であると考えられる。さらに、この年代は、仕事等日々の生活に追われ、余暇時間が少ないことが推察されるため、ワークライフバランスを実現すべく働き方を変えるための取組み等が求められる。

図表2-2-8 充実した社会貢献活動のための不足感（年代別）



資料) 国土交通省「国民意識調査」

2 楽しみ方について求められるすがた

(1) 余暇時間の創出

現在の余暇の過ごし方は、年代によって多種多様である。これは、各年代の嗜好の違いもあるが、余暇に費やすことのできる時間の長さの影響も大きいと考えられる。今後、長時間労働の是正等により余暇時間を創出することができた場合には、国内外を問わず旅行に出かけることや、自己啓発等将来に向けた前向きな時間の使い方が可能となることが推測されることから、働き方を変えるための取組みが求められる。

また、余暇を過ごす場所等までの移動の効率化も、行動範囲を広げるためや時間を創出するために必要であり、公共交通の利便性や道路渋滞の緩和等動きの改善に関する取組みが求められる。

(2) 楽しみの多様化・深化

(さらに楽しめる場所の創出)

現状、余暇に使える時間とお金が不足していると感じている人が多く、気軽に楽しめる場所が求められている。また今後、充実させたい余暇として、全年代で「国内旅行」が多く挙げられており、現在も旅行に出かけ余暇を過ごすことの多い高年層に加え、若年層においても国内旅行を充実させたいという希望が多い。

このため、既存の資源や人を活かし、観光の魅力の向上等により、さらに楽しめる場所を創出させる取組み等が求められる。

(学び直しの機会の創出)

限られた余暇時間を自己啓発や学び直しの時間に充当させている人は、現在は各年代で割に満たないが、時間があれば自己啓発や学び直しを充実させたいという希望は大きい。このような中、技術

革新等の進展や「人生100年時代」の到来を踏まえると、自分自身を磨く「学び直し」はさらに重要となっていくことから、その機会の創出が求められる。

(3) 社会貢献活動の充実

多様な楽しみ方の中で、地域活動・ボランティア活動等の社会貢献活動に参加することに生きがいを見出し、楽しみとする人が潜在的に存在している。こうした意欲は20代や70代で多いが、それぞれ活動資金や活動するコミュニティの不足のため、意欲を満たすことができない人がいると想定される。このことから、お金や時間をかけず、気軽に参加できるコミュニティや活動を増やすこと等、社会参加の場の創出が求められる。

また、現在、国民の社会貢献活動への参加意欲を、まちづくりやインフラ維持のためのボランティア活動等に活用する取組みが既に各地で行われており、世代を問わず、人と人とのつながりをつくる場になっているとともに、各人の生きがいを創出していると考えられる。我が国の厳しい財政状況を踏まえると、このような活動をさらに広げていくことが、重要である。

第3節

住まい方に対する意識と求められるすがた

住まいは我々の暮らしの拠点となるものであり、ライフスタイルを支える最も重要な要素であると言える。このため、住まい方を充実させることは、「働き方」や「楽しみ方」をはじめとする人生の充実につながっていくものと考えられる。

本節では、現状及び今後の住まい方に対する国民の意識について、年代別、居住地別に整理し、それらを踏まえつつ、求められるすがたについて考察する。

1 住まい方に対する国民の意識

(現在の住まい（居住地域・住宅）に対する不満)

現在の住まい（居住地域・住宅）に対する不満についてみると、全ての地域において、「特になし」という回答が最も多いことから、総じて、住まいに対する不満は少ないということが推察される（図表2-3-1）。